

はしがき

2012～2013年の中国共産党大会と全国人民代表大会を経て、中国の党・政・軍の指導体制が確立した。

中共総書記・中央軍事委員会主席・国家主席＝習近平。

国務院総理＝李克強。

この2人を中核にして、トップ7(7人の中共中央政治局常務委員)、トップ25(25人の中共中央政治局委員)が党・政・軍の中核機構の頂点に配置された。彼らを含め、「党と国家の領導人」と言われる国家級の指導者は56人。そのほかに、中央機構と地方機構要所の「省部級」の指導者が400人余。合計500人足らずの「高級幹部」が13億余の人民を「領導」している。

本書は、この高級幹部黨員と行政官僚との複合体(党・政・軍複合体)についての人物事典であり、構成は以下の6部からなる。

- 第1部 中国共産党2013～2018年の人事体制
- 第2部 [図説] 習近平・李克強体制
- 第3部 中国党・政・軍の指導者一覧
- 第4部 第18期中共中央委員一覧
- 第5部 歴代中国党・政・軍の指導者一覧
- 第6部 高級幹部272人の人事ファイル

第1部は、高橋博21世紀中国総研研究員、矢吹晋21世紀中国総研ディレクターによる2013～2018年の人事体制の分析である。「2013～2018年」は、2013～2018年人事の任期(5年)を意味している。中国の社会は極めて不安定で脆い構造をしているが、社会統治機構としての共産党官僚体制は強靱な組織再生力を持っていて、共産党創立100周年にあたる2021年を、習近平・李克強体制が祝賀するであろうことは確実視できる。

第2部の[図説]は、習近平・李克強体制の見どころを、ビジュアルにしたものである。

第3部の「中国党・政・軍の指導者一覧」は、中国党・政・軍の機構

と指導者の一覧表である。

第4部の「第18期中共中央委員一覧」は、204人の中国共産党のトップ・エリートの略歴を一望にしたものである。

第5部の「歴代中国党・政・軍の指導者一覧」は、党と国家の指導者の歴史資料である。

第6部の「高級幹部272人の人事ファイル」は、本書中枢部のWHO'S WHO 事典である。ページ数の制約の中で誰を何人選択するかに腐心したが、205人の第18期中共中央委員を中核にして、中央機構と地方機構の「省部級」指導者から50人ほど、第3世代の「党と国家の領導人」を20人ほど等追加して、合計272人とした。

本書の版元である蒼蒼社は、2013年4月に創立30周年を迎えた。

蒼蒼社という社名の名付け親は現代中国学の秦斗・竹内実先生、出典は「莊子」である。

「天ノ蒼蒼タルハ、ソノ正シキ色ナルカ。ソノ遠クシテ極ニ至ルトコロナキカ。ソノ下ヲ視レバ、マタカクノゴトキノミ」。

処女出版は竹内実監修『毛沢東集』『毛沢東集補巻』全20巻(中文)。その後、矢吹晋、高橋博、稲垣清先生らの指導の下に三菱総合研究所の月刊「MRI中国情報」を14年間編集刊行する傍ら、『中国情報ハンドブック』『中国情報源』『中国最高指導者WHO'S WHO』『中国進出企業一覧』などを定期刊行し続け、チャイナウォッチングの専門出版社として現在に至る。本書『中国最高指導者WHO'S WHO 2013-2018年版』の刊行は図らずも6月4日、天安門事件14周年目となったが、当時刊行した矢吹晋編『天安門事件の真相』(上下巻)『チャイナクライシス重要文獻』(全3巻)は、中国現代史研究の記念碑であると信じる。

本書の編集は、中国人事分析のベテランである高橋博研究員、矢吹晋ディレクターの助言の下に、21世紀中国総研事務局員が遂行した。長期にわたる編集作業に携わった人々の名前を以下に列記する。

田中典子、阿部眞紀子、石灰えり子、石巨峰、安林、遲建春、中村知子